



# 鈴谷小だより

令和6年度 第5号

鈴谷小Webページアドレス

さいたま市立鈴谷小学校 ☎852-5675

<https://suzuya-e.saitama-city.ed.jp/>



## 世界への扉

校長 中田 清人

メジャーリーガー大谷翔平選手のこれまでの活躍やこの夏のパリオリンピック等によって、海外への興味や関心が高まった子ども達も多いでしょうか。私も子どもの頃から海外への興味は大変高かったのですが、初めて海外に行くことができたのは、だいぶ遅くて26歳の時でした。

23歳の頃、中学校の教員として勤務し始めると、なんだか見た目が私にそっくりなALT（アシスタント・ラングエッジ・ティーチャー）と出会いました。ジミーというテキサス州出身の台湾系アメリカ人で、当時浦和市が採用していたJETプログラムで来日していた青年でした。年齢も私と同じ1973年生まれ。兄弟みたいで妙に気が合いました。以来、休みには一緒に登山に行ったり、温泉に行ったりして仲よく過ごしていました。そして、いつかジミーが帰国したら、必ず会いに行くという約束を交わしました。

その約束を果たせたのが、26歳の時でした。彼は、ヒューストン・アストロズとニューヨーク・メッツのチケットを私に用意してくれました。初めて見るメジャーリーグ。なぜかメッツの応援席での観戦でしたが、大いに楽しみました。「レッツゴー、メッツ！！」

その帰り道。ジミーが、大きな国道沿いの小さなステーキハウスに私たちを連れて行ってくれました。1人のウェイターの青年がやってくると、自分が私たちのテーブルの担当だと自己紹介しました。名前はさすがに忘れましたが、スラっとした長身のハリウッド映画に出てきそうな、ちょっとびっくりするくらいのイケメンです。

「キョ（私のこと）、せっかくだからTボーンステーキを食べなよ。」とジミーが言うので、最も大きなステーキを注文しました。他の友達も、めいめいサラダやらステーキやら飲み物やらを注文すると、ウェイターの青年は静かに頷き、厨房に消えていったのです。

私が「ねえ、ジミー。彼、注文を確認しなかったけど、大丈夫かな？メモも取らなかったし。」とジミーに尋ねると、ジミーはさも当然というように「間違えたら、ピシッ、ピシッ（と鞭を打つジェスチャー）」と反応するだけでした。

しばらくして、私たちが注文した料理が運ばれてきました。そして、ウェイターの彼は、私たちの前に1つの間違いもなく正確に給仕したのです。私はとてもびっくりしました。日本のファミレスではこうはいかないでしょう。ジミーにそのことを伝えると、「(そんなにすごいかい?)」とでも言いたげな顔でした。

初めての海外で最も驚いたのが、この小さな出来事でした。こんな片田舎のステーキハウスで、こんなにもプロフェッショナルな仕事を見られたことに対する驚きです。世界は広いし、いろいろな人間がいるなど感じたものです。私が子ども達に世界の広さを感じてもらいたいという思いの原動力にもなったエピソードです。

インターネットが普及し、海外からのインバウンドや働き手等が増えた現在、海外との垣根は昔ほど高くありません。新型コロナウイルスの影響はありましたが、グローバル社会はもはや日常となりました。世界への扉は大きく開かれています。

さいたま市では、独自の英語教育「グローバル・スタディ」が導入されて今年度で9年目となります。中学校3年生の英語力目標である「英検3級」相当以上の割合が88.4%と、全国で最も高かったさいたま市の英語教育は、全国的にも注目されています。しかし、さいたま市の進めるグローバル・スタディの目標は、単なる語学力の定着ではありません。「将来、グローバル社会で主体的に行動し、たくましく豊かに生きる児童生徒の育成」がその目標です。さいたま市で学んだ子ども達が、身に付けた英語の力やコミュニケーション力を使って活躍したり、世界中の多くの人と交流したりして、これからの人生をたくましく豊かに生きて行ってもらいたいと思います。

この秋、本校の6年生が埼玉県代表として、全国英語教育研究大会で授業実演を行います。これまでの学習の成果を発揮しながらも、本校の子ども達のありのままのよさを発揮してもらえたらと思います。応援よろしく願いいたします。

